

アマダイ通信NO. 94

(Tile fish network letter)

2013年杉花粉飛ぶ

知人・友人各位

年末の衆議員選で自民党が圧勝、民主党が惨敗、一度大勝しても結果が悪ければ退場させられるドラスティックな選挙制度だということを確認したが、危うさも潜む。議席数ではテコの効果が働いたが、自民党の得票率が大きく伸びた訳ではない。与党は取り敢えず安全運転を心掛ける。だが、次の参議院選挙でも自公、あるいは自公維が過半数を取った場合は、一気に改憲、近隣諸国との緊張が高まらないとも限らない。

同じような事象に見えても歴史は単純に繰り返している訳ではない。生産力が上がり豊かになったことで、まだ地上から全ての殺戮が消えていないとは言え、少なくとも人と人が互いに相食むことは基本的にない。断絶と競争、支配と被支配の関係から、理解と連帯、統合へと、人間とその世界は進歩しているように思う。国家間の争いも、長期的にはそのような視点から解決しなければならない感を深くする。

◎盛山和夫君に学ぶ、経済再成長とアベノミクス

安倍政権が成立、大胆な金融政策、機動的財政政策、民間投資を喚起する成長政策の「3本の矢」をキャッチフレーズとする「アベノミクス」がスタート。金融緩和の読みから円安が進み、円安による企業業績の改善期待から株価も上がり、失われた20年のトンネルの先に出口の明かりが仄見えた感じで、春の訪れにも似た明るさも漂う。景気は気からとも言う。桜が咲けば景気の蕾が花開き、暑い夏には景気もヒートアップして欲しい。

与党は早速「国土強靱化」を掲げ、10年で200兆円の「公共事業」を行うという。鉄やコンクリートの使用量が増えれば、も少しは忙しくなりそうだが、これでは何のために消費税増税を決めたのか？借金が膨らむだけで、医療や介護、年金、福祉に金は回らない。失われた20年の大部分の期間政権を担って来たのは自公だ。公共事業の大盤振舞いで国の借金を大幅に増やして来たにも関わらず、景気は回復しなかった。

円安誘導で企業業績が回復するとメディアは囃すが、輸出企業と言われる企業も円高と需要地での最適生産を見込み、多くは海外に工場を移し、為替中立になっていないか？又、円安でなければ海外企業との競争に勝てないのは、値段以外の付加価値を自らの製品が持たない、ユーザーから求められないということではないか？360円から250円、100円、ついには76円と急速に円高が進んだ時でも、必死に技術力を磨き、ユーザーに求められる付加価値の高い製品を世界に供給し続けた企業は生き延び、産業構造の変革も進んだ。結果、石油やガソリンも安くなり、庶民も気軽に海外旅行を楽しめるようになった。ユーザーに求められる付加価値の高い製品やサービスを創出、世界中の人々の生活を豊かにするという気概が欲しい。円安よりもその気概を引き出す「成長政策」が必要だ。

アベノミクス絡みで経産省の人間が読んでみると、自民党議員の秘書の友人に、「経済成長は不可能なのか」(中公新書、盛山和夫著)を勧められる。著者は社会学者だという。であれば、三鷹寮同期で東大文学部社会学科教授(現東大名誉教授、関西学院大学教授)

の盛山君だ。倉吉東高から文Ⅲ入学、文学部社会学科進学で、●と違って学生運動に入れあげることもなく、コツコツ勉強していた感じがする。早速購入。社会学科であれば、社会分析の必要上、経済学のレクチャーも受け、経済分析も出来る。視点が違えば、経済学者と見えてくるものも違う、面白い。アベノミクスに先駆け、大震災直後の一昨年 6 月、大震災からの日本経済の復活・再生を願っていち早く上梓された本書は消費税増税に賛成、年金などの社会保障に投入すべきと説く。憲法 25 条に規定する「健康で文化的な最低限度の生活」が生涯に亘って保障されてこそ、安心して国民はお金を使い、リスクを取りチャレンジすることも出来、経済も回る。真っ先に生活保護の削減を実行したアベノミクスと盛山理論の目指すところは、似て非なるようにも思えるが、日本経済再成長と日本再生を願う方は、浅学非才の●の説くところに依るよりは、先ずは本書を手にして欲しい。

◎氷頭と真鱈の子

仲間が集まらず日帰りスキーツアー不成立の土曜日、隣区江戸川区の豊洲図書館で経済誌を読み、豊洲のスーパーアオキで鮭の頭の酢漬け、氷頭（ヒズ）を探す。故郷秋田の正月の味、ヒズナマス。氷頭の薄切りと千切り大根と人参を甘酢で和えた健康食。テレビで、息も絶え絶え、不味い南限の鮭を工夫して美味しく食べる、新潟の村上の鮭料理番組を見て急に食べたくなる。家の近くのマルエツ、文化堂にはなく、アオキで発見、嬉しくなる。

田舎では正月用に鮭の塩引き(新巻鮭)を一本買うと、その頭の軟骨を酢漬けにし、皮ごと薄切り、大根、人参となますにして食べたが、最近は食べていない。美味しかったぞ！と津に住む兄にメールすると、秋田を離れて半世紀、氷頭なますを食べてないので、死んでも死にきれない！？とメールが返る。三井不動産の元副社長の大室相談役に、電源開発の新規事業の井水利用専用水道を物流施設に設置、水道インフラを二重にして、事業継続性（BCP）を高め、併せて水道料金を削減したらいかがですか？と提案した帰り、隣の日本橋三越で氷頭探し。さすが三越本店、置いている。1 パックだけ買うのも気が引け、あるだけの 4 パックを求め、津の兄に冥土の土産に！？送る。

知人に聞くと、正月に氷頭なますを食べるのは新潟より北で、いわば鮭文化圏。富山県より南は寒鰯を食べるので鰯文化圏と言うべきか？新宿で、三越にあるから小田急デパートにもある筈と探し、地下で氷頭を買う。ついでにもう 1 つの田舎の冬の味、真鱈の大きな卵も探すが、今日はありませんと、手に入らず。お袋の垂乳根を思わせる大きな真鱈の卵と人参、ゴボウ、キャベツの千切りを炒めたキンピラも、冬のお袋の味だ。来シーズンは早目に探そう。氷頭なますや真鱈の子のキンピラを食べたことありますか？

◎忘年会・初滑り・打ち納め！

師走の三連休の土曜日、四駆のオデッセイの屋根にスキー用のキャリアを自分でつけ、スタッドレスタイヤに換えて貰おうとオートボックスへ。会計を終えて休憩所で小一時間ほど待ち、呼び出されてコックピットに行くと、お客さん、スタッドレスタイヤ履いたままですよ！と、お代を返してもらおう。スキーシーズンが終わってもノーマルタイヤに交換するのを忘れ、夏の間も冬タイヤで走り、そのことすら忘れて、不要なタイヤ交換に来て、年末の貴重な数時間を無駄に過ごす。その夜は交換留学生も含め、寮生 35 名と歌舞伎町の居酒屋無門で、黒豚しゃぶしゃぶをメインに駒場祭打ち上げ兼クリスマス・忘年会。

日曜日の初滑りはロートル4名。去年はあれほど混んでいた関越道を、不思議なことに渋滞なしで、美白の浅間山を見ながら走る。まずは宝台樹スキー場脇の蕎麦屋へ。婆ちゃん元気で良かったと、婆ちゃん手作りのお新香と山菜、モツ煮で乾杯、鴨せいろで締めて地酒の水芭蕉に別れを告げ、白銀の尾根に身を踊らせる筈が、蕎麦屋は25日の大安からだ、商売は縁起を担ぐと、準備中の息子の板前。スキー場開きは15日(土)なのだから、19日の大安からやれ!と文句言いながら、スキー場内の食堂でゲソ唐揚げ、ポテトフライ、スパゲティなどで札幌黒ラベル短缶3本飲むが、意気上がり。2時間半で10本滑り、3時で上がって、混浴大露天風呂の宝川温泉へ。

クリスマスイブだからか!?男連れの子も惜しげもなく肌を露出、目を楽しませてくれる。初滑りなのに、圧雪していない上級コースに挑戦、コブで3転び。3転び目は両足のスキーが外れ10mほど体が吹っ飛び、自分の肘で脇腹を強打、着地で右肩も強打。カタハラ痛いとはこのことだ!?!と、温泉で癒す。

連休の最後の翌月曜日、寮同期の山川君や一年下の伊勢呂君、小畑君などと二組でホームコースの小川カントリーで打ち納めを楽しむ。前半51でまずまず、後半48で回れば百台突破と力むが、55。前日の3転びの肩腹痛が響いたか!?スイングも安定せず、飛距離も伸びない。この年でスキーとゴルフの連チャンは無理ですよ!と呆れられる。反省!

◎十回目は新幹線で吹雪の湯沢に、🍷は上級?中級?

2月半ばの10回目のスキーは仲間の一人がマンションの理事会、カップルで参加の一人が大きい大腸ポリープを二つ取り運動自粛。多動性症候群の🍷が130センチのショートスキー担ぎ、一人で湯沢に。いつものように出たところ勝負で、浜松町駅の緑の窓口に行くが、指定席売り切れ、自由席券買い東京駅へ。大人の休日倶楽部で3割引きは嬉しい。新幹線のホームは人でごった返し、乗車待ちの長蛇の列の末尾に。どうにか座れるも東京駅ではや満席。上野、大宮の自由席客は立ちん坊。スキーブーム再来か景気回復の兆しか?湯沢で降り、いつもの蕎麦屋の新橋亭で腹ごしらえをと思うが、一人で身軽、予て懸案の、新橋亭と双壁と評判の、駅の反対側、スキー場から遠い中野屋に。天ざるをつまみに生ビールを一杯飲み、濁り酒。蕎麦、酒ともに美味しい。昼前から満席、外にも行列。

GALAは少し距離があるので、湯沢高原で滑ろうかとも思うが、巨大ゴンドラが20分に1回来る湯沢高原より、6人乗りのゴンドラが数珠繋ぎで来るGALAは待たなくて、回数多く乗れる。山頂から繋がる下山コースで麓まで一気に滑り降りる湯沢高原もいいが、GALAの2キロ半の広い下山コースも素敵だ。美味しい蕎麦と地酒の店がゲレンデにあると、なお素敵だと思いながら、タクシー拾いGALAへ。1時にゴンドラに乗り、2キロ半の下山コースを3回滑降、他に5本ほど滑る。4時閉鎖の下山コース行きリフトにギリギリセーフ。5時過ぎGALA発の新幹線に乗り、6時半過ぎ上野着。7時半には我が家でビール。行きは車内でコーヒーと新聞読みながら、帰りはビールの新幹線スキーもいい。スキーとゴルフを気軽に日帰りのできる東京も、満更捨てたものではない。

翌週末も一人でGALAに向かうが、ゴンドラが強風で動かず営業中止。湯沢の駅中・ガード下の商店街は銀座のような込み具合。先週食べた中野屋とは駅反対側の新橋亭で腹ごしらえをと思うが猛吹雪、駅中の小島屋へ。中野屋は天ざる蕎麦が1260円だったが、駅中だけにいい値段。へぎそば一人前720円、天ぷら盛合せ(海老2尾、舞茸と野菜)890円、

生ビール小 600 円、白瀧純米 1 合 650 円。それでも待ち人の列。無料のシャトルバスで久しぶり岩原スキー場へ。2 千円のシニア 5 時間券で 8 本ほど滑る。今回は携帯に便利だが、不慣れで不安定な 1m 弱のウルトラショートスキー。吹雪で視界悪く、足元おぼつかず、5、6 回転ぶが、新雪のショートスキーでスピードも出ず、大禍なし。5 時半過ぎの二階建新幹線で帰るがグリーン車まで満席。通路でサッポロ黒ラベルする。

GALA 湯沢の 2 千 5 百 m の下山コースにボリュームでは敵わないが、千 3 百 m の山頂から高度差千 m の湯沢高原スキー場のダウンヒル、緩急の差が少い宝台樹のメインの上級コース 2 千 m を一気に滑り降りるのも面白い。GALA の山頂から滑り降りるのも気分がいい。急だが、幅広で圧雪しているので滑り易い。斜度は湯沢高原や宝台樹の上級コースと遜色ないが、中級コースの表示。スキー場にもよるが、GALA では雪上車が登ってコース整備出来る斜面は上級コースとは言わないようだ。上級コースの南斜面は圧雪していない。岩原の最上部も圧雪していず、こぶで苦労したので聞いたら、斜面が急で雪上車が登れないという。湯沢高原も宝台樹も上級コースは圧雪している。🐟の腕前は上級？中級？

◎大阪出張のお屋はおにぎり・・面倒みる筈が面倒みられ！？

1 月から「米屋の菊太屋」と「米屋のおにぎり屋」を営む、大阪のトウイ米穀店の顧問になる。その記念に南魚沼のこしひかりを送って貰う。艶があって甘く美味しいと、小千谷生まれの魚沼産、味にうるさい栄養士、米食派の「神様」が感動する。菊太屋のお米は 1 キロ千円以上と、普通の米に比べて高いが、高だけのことにはある、自信を持って営業出来る。現在は社員 60 名、年間売上 15 億円ほどの若い会社だが、若い東井社長を助けて、駅ビルやデパートなどへの高級米店とおにぎり屋の出店を拡大したい。読者の皆さんの応援を頂ければと思います。宜しく、お願いいたします。

月に 3、4 回名古屋、京都、大阪に出張する。「米屋のおにぎり屋」は京都伊勢丹の JR のコンコース脇、新大阪駅コンコース、大阪駅大丸地下にある。鮭おにぎり一個 220 円と安くはないが、その場で炊く美味しいお米で握り立てなので、よく売れる。先日昼時に新大阪駅で降りて、菊太屋の「米屋のおにぎり屋」のだし巻きおにぎりセット（他に鮭のセットや目刺しのセット）を買い、駅の待合室で味わう。中々の味だ。

馬齢を重ねて 66 年、米屋、おにぎり屋の出店、米作農家との提携や農業情報収集という、TPP の締結などで大きく変わろうかという、新しい分野にチャレンジできるのは嬉しい。ピンチはチャンスでもある。それも自治寮の東大三鷹寮が、大学管理の「東大三鷹国際学生宿舎」に衣替えしてからの、94 年入寮の後輩の久米知之弁護士に、彼の顧問弁護士先の営業顧問に紹介して貰うという、初めてのケースで、なお嬉しい。

世話好きが昂じ、旧寮廃寮後も若い寮生や留学生と 20 年ほど付き合ってきたが、世話する側から世話される側になろうとは思ひもしなかった。40 歳近くなり、役所でも本省なら課長補佐から、そろそろ課長、出先では課長や部長、民間でも課長や部長として、バリバリ働く年頃。第二の人生も終え、完全リタイヤする仲間も増えて来た団塊の世代に代わって、日本と世界の中軸になる活躍をして欲しい。自分のポジションが固まって来ると、異業種や縦横の連携のためネットワークが必要になる。総合大学の寮の同窓会として、異業種連携には事欠かない。寮生の三分之一が留学生なので、グローバルネットワークに発展させ、自分と日本のためだけでなく、世界のためにソリューションを提供して欲しい。

母国語しか話せないのに、「世界革命」を叫んだの、切なる願いだ。

◎行きたい国、アルジェリアも政情不安を露呈

かつてエジプト、チュニジア、モロッコと旅し、アルジェリアはリビアと並んで今にも行きたい国だが、日揮の社員がアルカイダに誘拐され、パックスツアーは暫く難しそうだ。エジプトも、アルジェリアも、第二次大戦後、植民地からの解放・自由を求めて独立を勝ち取った筈の政権が独裁を敷き、自由を抑圧する。学生時代に名画「アルジェの戦い」で憧れたアルジェリア解放戦線はどこへ行ったのか？

民主化運動に押され国政選挙を実施したら、ムスリム同胞団が多数を占めた国会を解散して独裁を続けるブーテフリカ大統領のアルジェリア。90年代は内戦状態。イスラムが栄え、オスマン帝国が覇権をふるった時、ムスリムは他の民族、宗教に対しても寛容であった。現在の余裕のなさ、不寛容は抑圧と貧困、格差の歴史故か。

イスラムは陸のシルクロードで繁栄したが、大量輸送が可能な海のシルクロードに対応出来ず、船による交易=重商主義で資本を蓄積、産業革命を成し遂げた西欧資本主義との競争に敗れ、植民地化された。イスラムのイデオロギーは重商主義には対応できても、産業資本主義に対応していないのではないか？と思ったりもする。イスラム即ち後進の色分けは何に由来するのか？アングロサクソンのシステム作りの才に対抗できない点では日本も同じだが。

◎「紅い貴族」・高見君と令計画

朝日新聞の「紅の党」の連載が再開した。前回は失脚した太子党の前の重慶党書記が主人公。今回の「紅の党」エリート編は、NPO法人「緑の地球ネットワーク」（高見邦雄事務局長）の共産主義青年団（共青团）の窓口だった山西省の党幹部、令政策の弟の前中央弁公庁主任（日本で言えば内閣官房長官）、共産党統一戦線部長に左遷された令計画が最初に登場。二回目で令計画兄弟5人の故郷、山西省に飛んだ。ここは緑の地球ネットワークのフィールド。も昨年久しぶりに現地を訪れた。大変貌を遂げる都市部と、多少の変化はありながらも、一杯の水にも困り、赤貧洗うが如くの、ディープチャイナ、しかも北京からほんの3百キロ、高速道路で3時間の、農民の生活を久し振りに垣間見て来た。

僕らが日本で細々と集めた浄財、20年間で10億円にも満たない金を使って、「愚公山を移す」（毛沢東）が如く、緑化と救貧のボランティア活動続ける傍らで、旧知の党幹部の息子が9千万円もする赤いフェラーリに女友達を乗せて一緒に事故死する。割り切れない思いもする。昨今は、「経済大国」中国に日本で集めた金を持って行って何かして上げる必要があるのか？尖閣諸島の領有を主張する中国を助ける必要があるのか？という訳で、難しい局面だ。だが、こういう局面だからこそ、国家と国民を分けて考え、必要とされる限り、国家の枠をはみ出しても、草の根レベルで交流活動続ける必要がある。皮肉だが、日本人が毛沢東の説く愚公となって、「範を垂れる」かの如くではあるが。

三鷹寮同期、二十年以上、山西省大同市で黄土高原の緑化・救貧活動を続け、も世話人として活動を手伝うNPO法人「緑の地球ネットワーク」事務局長の高見君。中国では高く評価され、中国に貢献した外国人に与えられる勲章、「国家友宜章」を受章。この十年近くは総工会がカウンターパートナーだが、そのことで逆に彼のネットワークも広がった。

こういう時期だからこそ、通り一遍の関係ではない、高見君の青・労の中国人脈を他の場面でも生かせないかと思う。

★「黄土高原植樹」春のワーキングツアー（4月6日<土>～12日<金>）

興味のある方は下記ホームページを覗いてご相談下さい。興味があるけど都合が付かないという方にはGEN作成のDVDを差し上げます。下記にお問い合わせ下さい！

※税制上の優遇措置をうける認定NPO法人※

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク（GEN）

TEL. 06-6576-6181 FAX. 06-6576-6182 E-mail

gentree@s4.dion.ne.jp URL <http://homepage3.nifty.com/gentree/>

◎106 回目の蹉跌

1月24日（木）の三鷹クラブ106回講演会。講師の同和ホールディングス吉川相談役がプロジェクターを使うというので、前週の金曜日に会場の学士会館に電話するが、予約が入っていないという。平賀代表世話人の、学士会館の会場が空いていたよという言葉で、予約も済んでいると勘違いしてしまつたらしい。慌てて東大の山上会館、新しく出来た「伊藤記念館」、一ツ橋大学同窓会の如水会館、寮で一年上の小林節さんが社長のパレスホテル等、あちこち連絡するが、新年会シーズンでどこも満杯、半日パニックに。

最後、高島会長が三鷹寮の大先輩、小野寺社長が能代高校同期の、住友不動産の秘書室に連絡、同社の貸し会議室「ベルサール八重洲」を貸して頂くことに。食事と飲み物も住友不動産の子会社泉レストランに用意して頂く。会長、社長が知り合いということで、大変気を使って頂いた上に、大サービスして頂く。その分、関係者の方々には随分ご迷惑をお掛けした。アバウトな性格で細かいことに気配りが足りないと、大いに反省。

出席者への連絡に遺漏なきを期そうと、メールで二回連絡、電話やファックスでも連絡。それでも65人中1人が学士会館から電話をくれて、遅れて参加したが、どうにか滞りなく終る。同じ建物の地下の中国レストランの二次会も好評。講師の同和ホールディングス吉川相談役、テーマは「環境とエネルギー」、原発については経団連と同じ推進の立場。参加者の意見も二分、質疑も活発。何本も手が上がる中、司会者として、9時で質疑打ち切り、閉会。二次会も盛り上がる。

◎我が故郷高遠・・東大三鷹クラブ第107回定例懇談会（大阪開催）

岡部高明さん（読売テレビ放送社友 昭和29年入寮）に、「わが故郷高遠」のテーマで話していただきます。大阪開催は今年で17回目です。岡部さんは、その多くに出席され、いつも生まれ育った信州高遠への思い入れを熱く語っておられました。

昨年7月の東京の定例会に、岡部さんがわざわざ出て来られましたので、その際は是非にと講師をお願いし、今回の企画が実現したものです。最近私は、時間的なゆとりが出来ましたので、かねて関心を持っていた各地の城をめぐる旅などに出かけております。高遠にはまだ足を伸ばしておりませんが、奥深い歴史的背景から、あこがれの地の1つとなっております。

私の知る限りでは、高遠は武田氏と諏訪氏の複雑な攻防の過程で、微妙な役割を果しました。武田氏がこの地を支配した後、信玄、勝頼の2代にわたって、重要な拠点と位置づけ、現在残っている城郭も、山本勘助が縄張りを行ったとのこと。武田氏の最末期、高遠を守ったのは、勝頼の弟仁科五郎盛信で、武田家累代の重臣や縁者が次々と離反する中、忠節を全うし、城を枕に仕烈な討死を遂げました。

下って江戸時代、初代の藩主は保科氏でしたが、三代将軍家光の異母弟正之がこの家を継ぎ、名君の誉高く、後に会津23万石に移封されました。以来、正之は、家光を輔けて、幕閣の中心的存在として活躍するとともに、会津武士道の基本精神を確立しました。大河ドラマ「八重の桜」の原流は高遠に発しているとの見方も出来ます。

正之の後、一時鳥居氏が入り、元禄4年以降は、やはり譜代の内藤氏が、明治まで8代にわたって藩主を務めました。高遠藩内藤氏の江戸屋敷は、新宿にあり、現在は新宿御苑となっております。なお高遠に関する出来事として、生島事件の後奥女中絵島が流されたのは高遠でした。今も関係する遺跡があります。

明治以降、城跡に多くのヒガンザクラが植えられ、今や高遠は、国内有数の桜の名所として知られるようになっていきます。岡部さんから高遠の歴史と、地域の魅力について、興味深いお話をお聞きすることを楽しみにしております。(平賀 記)

日時：平成25年3月21日(木) 18時30分～21時(開場18時)

場所：中央電気倶楽部 本館207号室(大阪市北区堂島浜2-1-25 電話06-6345-6351(代))
JR大阪駅より徒歩12分 地下鉄四ツ橋線西梅田駅より徒歩5分(堂島地下街南詰C-93番出口)

会費：5000円(会場費、夕食代・ビール代、通信費など込み)、別途二次会あり。

定員：30名(先着順：定員を超えない限り特に連絡は致しません)

申込先：平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

(有)ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎新・旧委員長交替

暮れの22日(金)、寮委員会がエスニック屋台を出店した駒場祭の打ち上げを兼ね、歌舞伎町の居酒屋無門でクリスマス・忘年会を開催。黒豚とズワイ蟹のしゃぶしゃぶ、フグの刺身とにこごり、茶碗蒸し、伊勢えびのグラタンなど、和食のコース料理を、留学生を交えた寮生と楽しみ、若者のインターナショナルな交流の機会を作る。折から2年生の和田君から1年生の野原君に委員長が交替、それぞれが「決意表明」。

★和田君より

昨日は無門に35名の大人数にも関わらず、連れて行っていただき、本当にありがとうございました。とても楽しかったです。普段あまり交流のない三鷹寮生にとって、とても良い交流の機会になりました。本当にいつも交流の場を提供していただいてありがとうございます。これからの委員長は野原裕一郎です

★野原君より

新 MSC 委員長の野原です。昨日は忘年会を開いて頂きありがとうございました。干場さんたちのおかげで寮生共々、楽しい時間を過ごすことができました。いつかは自分たちが出世して干場さんたちと行けるように精進します。来年もいろいろと御苦労をおかけすると思いますが、どうぞよろしく申し上げます。昨日は本当にありがとうございました。

◎10 年入寮生とは事務所で新年会

三鷹寮は駒場の教養学部の 1、2 年生主体の寮。本郷の専門学部に進学すると付き合いが薄くなる。たまには本郷の連中とも飲もうと、年度末試験中に拘わらず、三年生 7 人と文科省入省予定で 4 年生の工藤君、06 年入寮の院生の岡本君と都合 9 人が集合して事務所で新年会。出来合いのおでんを温め、白菜と茄子の漬物を切り、ピザと寿司を取って、7 時から 10 時まで、盛り上がる。本郷に進学すると余り顔をあわせる機会もないようで、楽しく近況報告。学部生になると専門の話も飛び交う。異分野の情報交換、社会に出てからの学際的協力や異業種交流のネットワークに発展、お互いと社会の役に立つと嬉しい。

★法学部三年の寺井です。

昨日は、新年会を開催していただきありがとうございます。久しく会っていなかった同期生と集まることができ、とても楽しかったです。なかなかみんなで集まれる機会がないので、干場さんのおかげです。特に最後に話していただいた、人とのつながりのお話が興味深かったです。またお誘いください。

★工藤です。

先日は大変お世話になり、本当にありがとうございました。アマダイ通信等で干場さんのご活躍は拝見しておりましたが、久しくお会いできていなかったため、先日の機会は本当に嬉しかったです。自分たちも 4 年生ともなると、なかなか下の寮生との交流が少ないため、そういった意味でも先日の機会は貴重なものでした。先のメールで干場さんがおっしゃっていた「目先のことだけでなく」というのは、本当にそのとおりでと思います。私も、4 月から新生活を始めるにあたって、目の前のことも大事にしつつ、長期的な視点にたって物事を考えていくよう努めたいと思います。特に、これからの国作りを担う職に就くのですから、特に重要な姿勢だと思っています。それではまたよろしく申し上げます。

◎携帯メアド変更（パソコンメアドはそのままです！）

国際派の友人が誤操作したらしく、携帯に海外の若い娘から「デートのお誘い」メールが頻繁に届くようになり、ドコモの店で個別に受信拒否設定して貰う。ところがパソコンメールの受信拒否設定までしてくれたらしく、パソコンからメールが届かないというクレームが殺到。再設定して貰うが個別の受信拒否では対応出来ず、携帯メアドだけやむを得ず変更しました。通常のメールは携帯ではなく、これまで通りパソコンにお願い致します。

◎メアドを教えてください！

本通信を長年郵送して来た「郵便局の革ちゃん」ですが、デジタル時代でもあり、郵送からメールに切り替えて行きたいと思います。郵送で届いている方でメールアドレスのある方は、出来ればメールアドレスを「tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp」まで教えて頂ければと思います。宜しくお願い致します。（再見）